

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 23 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	高橋 大輔	会員番号	0030418
申請者の 所属・職名	独立行政法人理化学研究所 リサ-4アソシエイト		
出席会議名	COLD SPRING HARBOR LABORATORY Harnessing Immunity to Prevent & Treat Disease		
発表論文 タイトル	Distinct Roles for cxcR6 ⁺ and cxcR6 ⁻ CD4 ⁺ T cells in Pathogenesis of chronic colitis		

実施結果:

2011年11月16日から19日にかけて、コールドスプリングハーバー研究所で開催された「Harnessing Immunity to Prevent & Treat Disease」に参加させて頂いた。ニューヨーク州はマンハッタンの東に浮かぶロングアイランド島の中西部にあり、JFK 国際空港からは鉄道で1時間程である。初日はT細胞やB細胞のメモリーを決定するメカニズムについてのレビュートークのセッションであった。これは夜の8時から10時過ぎまでというスケジュールで、日本の大抵の学会とは異なり少々驚いた。参加者が70人程の会議であるのでアットホームな雰囲気、二人の気鋭の先生による発表に対し活発な議論が行われた。二日目の午前中は、自然免疫による適応免疫応答の調節に関するセッションであった。インフルエンザウイルスに対するワクチンの効果を、サイトカイン応答やその他の指標と組み合わせ、システムバイオロジーの観点から評価した研究では最も議論が活発に行われた。午後はポスターセッションであり、私もCD4 T細胞の大腸炎時におけるメモリー細胞の役割に関してポスター発表を行った。多くの人と議論を行い、その中でより研究内容を高める為に必要な点を認識させられた。また具体的に改善すべき点に関して提案を頂くこともできた。少人数の狭い部屋での発表であったので、著明な研究室に所属する同年代の学生やポスドクの方と知り合う機会を得られたし、彼らの研究に対する考え方の一端に触れることができる貴重な時間であった。その後、午前中の続きのセッションが行われ、二日目も夜の11時近くまで議論が行われた。三日目は主に粘膜面におけるT細胞のメモリーの獲得、そして腸内細菌と粘膜免疫とのクロストークに関するセッションであった。この分野は最近非常に競争が激しく、そして進捗が著しい分野ではないかと思われるが、Lora V. Hooper、Dan Littman の両博士が座長で終始議論をリードしておられた。そして最終日は、これまでの会議の内容を踏まえヒトの治療への応用に関するセッションであった。ここでもその評価法としてシステムバイオロジーを取り入れた網羅的解析手法がひときわ注目されていた。私が非常に苦手とする分野であったので、改めて大変勉強になった。本会議に参加し、自分の現在の研究の問題点や改善点を明確に認識することができた。また同世代の海外の研究者と数日間同じ屋根の下で寝食を共にして、彼らの交流出来たことは、スタートしたばかりの自分の研究人生にとって決定的に重要な経験になったと考える。会議終了後に、来年からの留学先であるカリフォルニア州サンディエゴの La Jolla Institute for Allergy and Immunology を訪ね、将来の研究内容について議論した。また将来の同僚と、交流を持つことが叶った。本トラベルアワードを頂くことができたからこそ、訪問することが叶った。このような機会を与えて下さった岸本先生をはじめ、免疫学会の諸先生や関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

注) 本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。